

令和5年度

第3回在宅医療・介護連携推進協議会

会議概要(要旨記載)

日時:令和6年2月22日(木)午後1時30分～

会場:湖西市立中央図書館 2階学習研修室

## 1 出席者

### <委員>

- 長尾 文之助 ( 浜名医師会 )
- 鈴木 隆 ( 湖西市医会 )
- 塩野 州平 ( 浜松市薬剤師会 )
- 内山 大輔 ( 介護老人保健施設まんさくの里 )
- 夏目 志津子 ( 市立湖西病院在宅支援室 )
- 鈴木 織江 ( 浜名病院地域医療連携室 )
- 田中 結子 ( R.Y訪問看護ステーション )
- 内藤 加代子 ( 地域包括支援センター湖西白萩 )
- 浅井 恵子 ( ケアプランセンター陽菜 )
- 藤田 周子 ( 有識者 湖西市医会 医師 )
- 山下 いづみ ( 坂の上ファミリークリニック湖西 )

### <事務局>

- 阿部 祐城 ( 健康福祉部高齢者福祉課長 )
- 琴岡 文乃 ( 健康福祉部高齢者福祉課地域包括ケア推進係長 )
- 吉野 沙織 ( 健康福祉部高齢者福祉課保健師 )
- 松井 美智子 ( 在宅医療・介護連携支援センター相談員 )
- 森田 ゆかり ( 健康福祉部健康増進課保健師 )

## 2 会議次第

### 1. 開会 挨拶

### 2. 議事

- (1) 令和6年改訂お助けブックについて . . . 資料1
- (2) ACP部会報告 . . . 資料2
- (3) 多職種研修会について . . . 資料3
- (4) 4つの場面ごとの目指すべき姿について . . . 資料4

### 3. 次回案内 次回 令和6年6月27日(木) 予定

### 3 会議内容

開始 13 時 30 分から

<p>開会 1 あいさつ</p>	<p>高齢者福祉課課長) 湖西市在宅医療・介護連携推進協議会を開会します。議事の進行については長尾先生お願いします。</p> <p>会長) 司会を務めさせていただきます。宜しくお願いします。それでは議事に入ります。</p>
<p>2 議事 1) 令和 6 年改訂お助けブックについて</p>	<p>事務局説明 資料 1) お助けブックの修正箇所を一覧でまとめたもの。関係機関への周知、配布方法についてご相談したい。</p> <p>昨年度は医師会には医会にて説明、修正箇所について配布。歯科医師会は意向に従い、配布なし。薬剤師会は修正箇所について配布。</p> <p>包括支援センターについては、全体会で修正箇所を配布。居宅支援事業所、今まで配布がなかったので全事業所に 1 冊ずつ配布。訪問看護、今まで配布がなかったので全事業所に 1 冊ずつ配布。</p> <p>今年度は、各関係機関に配布方法を相談し、希望を聞きながら意向に従い決定していこうと思う。</p> <p>次にデータベース調査集計について。非公開実績調査については、個々の実績数は公開せず、湖西市の実績として集計値のみを経年的に現状分析として使用していくものとして調査を実施。(注意書きは今年度から) 訪問診療の実績値については KDB システムのレセプトからだと、医療(国保・後期)と介護保険の数となり社会保険分は含まれないため、より現実的に近い件数で評価していくために、アンケート調査を行っている。しかし医療機関によっては〇件くらいや 100 件から 200 件とアバウトな件数報告もあり、「※参考値」と記載はしていますが、この数値の公表や 2 次利用についての取り扱いについて、どのように考えるかの意見をいただきたい。現在は内部参考資料としてこの協議会のみ公表だが、実際に湖西市の実績として公表していきたいとの意見もいただいている。</p> <p>長尾会長) 意見、質問はいかがか。</p> <p>委員) アンケート調査をする場合、固有の数字を公開するのは良くないと思う。だが、今回まとめているように、まとめた数字の表記であれば、その地域での医療資源がどのくらい使われているかが、市民にも分かり易くて良いと思う。他の団体の方はいかがか。</p> <p>委員) もし公表するとすれば、どういう媒体でどのようなタイミン</p>

グで公開するのか。

事務局) 今は内部資料で、現在ホームページには載せていないので、まずはこの協議会の資料としてホームページ上に掲載できればと思う。実績値の利用については、高齢者福祉課に要相談と注意書きを入れ、資料を活用したいとの話については、その都度どのような形で利用していくか、検討していきたいと考える。

委員) 積極的に公表はしないが、活用したい場合には、方法や判断について意見をいただけるということですね。

死亡診断書作成件数については、病院は含まれるか。

会長) 死亡診断書の数が多いですね。病院診療所を分けてみると面白いかもしれない。

事務局) 確かに分けたほうが、在宅で亡くなられた方がわかると思う。先生方がよろしければ、そのようにしていきたい。

委員) 居宅（ケアマネ）の加算は、法改訂で変更ありましたので来年度はまた聞き取り項目が変更となりますね。

会長) 訪問薬剤、訪問看護も増加。今回の改正で今後どのように動いていくか。在宅が改正で手厚くなっているように思う。

## 2) ACP 部会報告

会長) 議事 2 に移る。

事務局 資料 2) 今年度、有志として立ち上げ活動を行ってきた ACP 部会について報告する。主な活動内容は表のとおり。

専門職への研修会を第 2 回多職種研修会で実施。ACP 部会から専門職が正しい知識を繰り返し学ぶ機会が必要との意見が出て、その中で ACP についての研修会を来年度実践的な研修会を企画しているが、前段階として専門職自身も動機づけのために、自分の価値観や最終段階の医療について考える機会を持ち ACP を自分事と捉えることが必要との意見もあったので、もしバナゲームを体験し、価値観や自分自身のあり方について様々な気付きを得ることが ACP の理解につながると考えている。多職種研修会については議事 3 にて報告する。

来年度の計画では更に広く市民への周知啓発ということで、広報こさいでの ACP についての特集記事の掲載を企画している。内容と

して、『～「もしも」に備え、人生の「これまで」と「これから」を大切な人とはなしてみませんか～』ということで4つの内容に分けている。

#### ① 人生会議とは

誰でもいつでも命に関わる病気やけがをする可能性がある。命の危機が迫った状態になると、約7割の方が医療ケアなどを自分で決めたり、望を他者に伝えたりできなくなると言われている。あなたやあなたの大切な人が「もしも」そのような状況になったとき、価値観や気持ちを信頼する人と共有しておくことが助けとなる。

② 思いを伝える、共有する大切さや療養期の過ごし方についてもしものときに関わる専門家から話を聞く。

#### ③ 体験談の紹介

「最期まで私らしく、大切にしたい本人の思い」についてのインタビュー記事

市内の訪問看護事業所に協力いただき、アポイント。現在日程調整中。思いのエピソードや在宅療養をして感じたことなどでインタビューさせていただく予定。

④人生会議の進め方、湖西市の取組、湖西市エンディングノートの紹介。

※合計3～4ページ程度で掲載。

また現在は合同発行している「私の道 ～マイエンディングノート～」を活用しているが、現在は広告収入にて発行しているために企業広告を外すことは難しくまた契約規定でデータ印刷が不可となっているため、webサイトから印刷して利用するなどができないという課題がある。関係各所から様々な意見をいただき、意思決定支援に活用できる湖西市版のACPノートの作成についても現在検討中。ACPは1回だけでなく人生の分岐点などで何回も実施していくもので幅広く病院、施設、在宅どのような場面でも使えるような形のACPノートを湖西市として作るのはいかがでしょうかという意見がでており、検討を重ねている。

検討過程で協議会の医院の皆様や関係機関の皆様に意見をいただきながら、実践的に利用できるものを作成していきたい。

会長) これも今回の診療報酬改訂で入院時にACPをやることという範囲拡大してきていると思う。今後さらに進んでいくと考えられる。

委員) ICTのACPは危険との意見もある。加算をとるためだけにACPを聞く。専門病院でACPをしたうえで市内の病院に転

院、普通にACPをして専門病院に転院。分担や連携が必要。

委員) 在宅も、医療圏が浜松と湖西は一緒になるらしく医療圏のサポートも難しいことがでてくるのでは。

事務局) 今県で医療圏について考えられており、1月説明会があり今後3月にもある予定。注視しながら会議でも提供できたらと思う。

委員) 在宅医療の医療圏が徹底されることで病院と診療所との連携が図りやすくなると良い。湖西市は豊橋市も関係が深い。

事務局) 湖西市は静岡県に属するので、静岡県の計画は下りてくるが愛知県については全く情報が降りてこないのが現場での情報を聞くしかない。そこについては考えないといけない。

会長) 医療圏的なことと言えば、市立湖西病院が医療センターと提携を結んだので少しながれができてきている。新所原地区はどうしても、通勤圏が愛知県になる。

事務局) 説明会においては声を上げていかなければと思う。

会長) ACP部会は浜松で経験されている方もいるので、期待している。

委員) 医療圏が、浜松湖西が同じになるなら、湖西市版でなくても良いのではないか。

事務局) 動向を注視していく。

### 3) 多職種研修会について

会長) 議事3に移る。

事務局) 資料3) 令和5年度 第3回の多職種研修の案内。本日夜の開催。Web参加は申し込み不要。会場参加も余裕があるので是非参加を。追加資料として資料3) -2を配布。こちらは9月22日に実施した実施した藤田医師による市民向け講演会のアンケート結果をまとめたもの。先生の人柄もあり在宅医療講演会としてはとても多くの方にご参加いただき、在宅医療の関心の高さ、自分や家族のこれからについて考える方の様々な声も聴けて大変有意義な後援会になったのではないかと思います。ありがとうございました。次

年度もまとめたアンケート結果を参考に計画を立てていきたいと考える。

続いて、第2回在宅医療他職種研修会の報告です。資料議事(3)参考資料は1月17日に実施した研修では医療や介護に関わる方のACPの必要性と意思決定プロセスについて学び、「もしものとき」を自分事として考え多様な価値観があることに気づくためにもしバナカードの演習を実施した。さらには、意思決定支援に専門職としてどう関わっていくか本研修会を通して実践へのきっかけづくりとなる事を目的に開催し、参加者から多くの学びの声をいただいた。アンケートで様々な意見もいただきやはり関係者が連携していくために様々な課題も挙げられていた。率直な意見もあるため、この資料の一般公開についての意見をいただきたい。

このような様々な職種が顔の見える機会を持ち連携を深めていく必要性も改めて感じた。次年度の研修会に生かしていきたい。関係者の皆様には引き続きご協力いただくことがあると思うので、宜しく願いたい。

委員) アンケートとるときに公開の同意はとっているか?

事務局) 同意は得ている。

委員) 差しさわりのないところで公開しても良いのではないか。

委員) 同じような意見はまとめ、公開しないほうがよいものはよけて公開すればと思う。

事務局) 整理し、まとめたい。

4) 4つの場面のめざすべき姿について

会長) 議事4に移る。

事務局 資料4) 前回第2回の協議会にて連携の目的・連携の人・方法が異なる4つの場面に分けてPDCAサイクルを考えることの必要性をご説明。①の日常の療養支援の場面についてまとめたものについてご意見をいただいた。今年度は、特にACPについて力をいれ取り組んでいることもあり、④の看取りの場面の考え方についてご意見いただきたい。めざすべき姿であるために必要なことを、3つ挙げてみた。1つ目：専門職が、人生会議(ACP)について十分に理解し、話し合いの機会を設ける。2つ目：市民が様々な看取りについて理解し、人生の最終段階の医療やケアについて家

族等と話し合い、医療・介護スタッフとも共有している。3つ目：在宅看取りまで対応する医療機関との連携体制が整っている。3つについて現状、現状分析・課題抽出、要因分析、施策、アウトカムについて、こちらでまとめてみたので意見をいただきたい。

会長) ACPのタイミングはどうか。入院したら全部やるとか。(60歳以上で)

委員) 関係性やタイミングがあるのでなかなか難しい。どの様にやっていくのが良いのか悩む。

会長) 誰もいつ亡くなるかわからない。死体検案書を書くことも多い。

委員) 考えられるうちに1回65歳になった時点で また65歳未満の方はどこに相談すればよいか苦慮することが多々ある。

委員) ケアマネに入院したタイミングでやってほしいといわれることもあるが、入院した時点ではなくもっと早い時点で、ACPに慣れ親しんでいればいざというときに困らないのではと思う。

委員) 若い元気な人を対象に、もしバナゲームができれば良い。

委員) 65歳で介護保険証が配布されるときにできればとも思う。

事務局) 元気な方の教室を実施するときに行えればと思う。

事務局) もしバナカードが医師会の協力で10セットある。貸し出しもしているので、啓発のためにも利用していただくと良い。早い段階できいたことがあれば、自分事として受け入れやすい。

事務局) 湖西の場合はACP部会で検討できたらいい。(湖西では65歳になった時点で皆に話していると言えればいい)

委員) 包括は、独居訪問で、エンディングノートの配布や、ACPについて触れるようにしているが、ACPという言葉を知ることがもう少し具体的にできると良いと思う。

事務局) 計画しているように広報(6月)を通じてACPの周知を

していくことができるという。

委員) 一般的なことは勿論だが、事例検討をみんなのできる場ディスカッションできれば、やれることも増えて良い方向に繋がっていくと思う。亡くなるまでに方向性がみつからなければ、連絡先は市となる。結果早い段階から、市が関与しての役割が明確になればと思う。皆が困らない。

事務局) 今回いただいた意見を網羅しながら整理していきたい。

### 3 次回案内

事務局) 次回 令和6年6月27日(木) 予定。  
第3回在宅医療・介護連携推進協議会を終了する。

委員) 委員を増員はしないのか。

事務局) 必要に応じて検討する。

